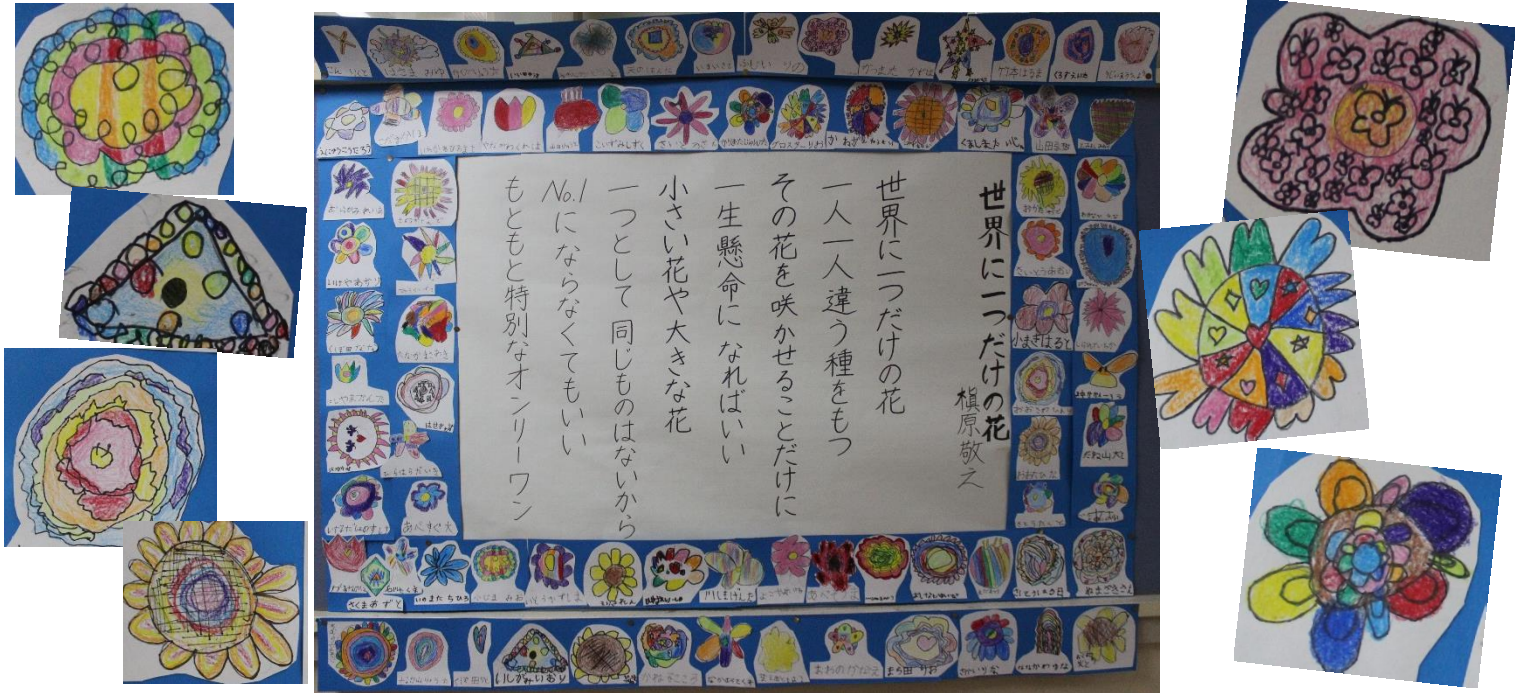


# ほっと ハート

「わたし」という1つしかない花を、自分らしく咲かせて



南校舎1階の会議室前にある「今月の詩」掲示板、11月は1年生の詩です。1年生はSMAPのヒット曲としても有名な、槇原敬之さんの『世界に一つだけの花』で掲示物作りをしてくれました。

詩の周りには、1年生が描いた花が添えられています。三角やハート、虹色や淡い色・濃い色。色も形もそれぞれ異なりますが、どの花もとても素敵ですね。きっと、自分の好きな色や形を集めて、楽しみながら花を描いたのだらうなということが伝わってきます。

この詩を読んだり曲として聞いたりするたびに、「個性の美しさ」ということを考えます。顔や姿、考え方や性格が違っている人間が集まっているからこそ世界は面白いのです。(顔や姿が全員同じだったら、それはロボットと同じですものね。)

しかし、そんな個性を比べて、喜んだり傷ついたりするのも人間です。様々な個性が集まって生活している学校だからこそ、そんな子供たち一人ひとりの美しい個性を伸ばし、お互いの個性を大切にできる心を育てたいと思っています。そして、自分の個性も、相手の個性も大切に思える子供たちが、よりよい未来を作ってくれることを願っています。

この文章を読んでくださっている「あなた」も、世界に一つだけの、大切な大切な、オンリーワンの美しい花です！

## 自信は自分を信じること

〇年〇組担任 ○〇〇〇

なぎなたという競技を知っていますか。なぎなたは、武道の一つで剣道に似た競技です。私は高校三年間、毎日なぎなた漬けの毎日でした。稽古の中には好きな稽古と嫌いな稽古があり、嫌いな稽古がある日はあまり気乗りしなかったのをよく覚えています。それでもしっかりと稽古をしなければ、先輩に怒られてしまうのでしぶしぶ稽古に参加していました。そんな私にある転機が訪れます。2年生の夏の大会でレギュラーから外されたのです。それまで私は、どの試合にもレギュラーとして試合に出場していたために、ショックでした。

試合が近づくと稽古が変わり、内容も試合に向けたものになりました。レギュラーのみが延長して稽古する日もあり、悔しい思いをしました。次の試合でレギュラーになるためにはどうすればいいか、私は1年生のころから毎日欠かさずにつけていたノートを読み返し、改善点を探しました。ノートを見ると、学年が上がるごとにやる気が下がっていたことに気づきました。私は心のどこかで「楽なほうへ楽なほうへ」と逃げていたのです。私はやったつもりになっていただけだったことを知り、恥ずかしくなりました。

気持ちを入れ替え、嫌いな稽古にも積極的に取り組むようになり、3年生では国民体育大会に埼玉県代表として出場することができました。

嫌なこと、辛いことがたくさんあると思います。頑張っても思うように身につかないかもしれません。しかし、努力を続けていけば必ず「自分はこれだけ頑張った」という自信が身に付きます。自信は自分を必ず助けてくれます。これは頑張るぞ！という目標を決めて、今日から頑張ってみませんか。



## 祖父からの教え

事務室 ○〇〇〇

私の祖父は戦争での負傷が原因で視覚障がい者（全盲）でした。生まれつきの障害ではなかったのに、物や色はある程度理解できました。私は祖父が分かる様に細かく説明しながら会話をしていました。全盲ではありましたが、私のことをとても可愛がってくれました。私もそんな祖父が大好きでした。

祖父との思い出はたくさんあるのですが、中でも良く覚えていることがあります。小学生の時に私がコマを回すことが出来ずに悩んでいたら、コマと紐を渡すように祖父に言われました。私は、渡すときに「おじいちゃん、見えないから回せんやろ？」と言ったのですが、祖父は笑いながらコマに紐を巻き付け、ヒョイと投げていとも簡単に回し、私はとても驚きました。その時に祖父に、「人を見た目で判断してはダメだ！」と教わりました。「ちゃんと自分でその人を見なさい。他人がその人のことを色々と言うかもしれないけれど、自分でその人を見て判断しなさい。」と。

今は私にも息子が一人います。息子にも祖父の教えを伝えて、良い人間関係を作ってほしいと思います。